

ずらかへぐ急し如かく行を道き遠てふ負を荷き重は生一の入

▲嶺秘書役長▼
(四) 翠山

して誰か克く彼の如き宏大なる門戸を確
 體義を飾ると得んや、而して氏の門に出
 するもの日々十數人雨夜より邦人ありや
 シヨあり而も客種の神祕如何は知る
 なきも大方ソレと推しなば何れは不時
 備けに凱へたる應數を打たんとする虫
 けり代物等に過ぎざるなり、故を以て所
 の門前庭園と異かに至らざりしと内所の
 鍵り一方ならず一欄一棧已れが終に索
 して車馬の門極よりも尚ほ急はしむる
 しとは當時口舌難くも京量の増したる
 り、而して氏も亦努めて種々の人物と
 さを備へ、八咫鏡廣く世人と交際し

きされど空欄屋は到底空欄屋なり蛙の子
罵虎の蛙の子に過ぎず論を發して特がひ
べき落なりし百萬圓の大金は待てども暮
せも一向に香沙汰なり斯うと定てにな
りし先方の口理は全然越中の事となるの
り氏は大に落膽し巴ひなり旗を卷て日
歸ることとなりたるなり、而も氏はは
閑空欄屋の常として一進會に關係を付
三の會員と往復して何事と計り追つ
一進會を利用してある種の要領を得ん
とを謀みたることすらあり幸か不幸か
とて謀みたるや土臺物にならずして破れた
破れたるは初より當然の事なりし
蓋し破るは初より當然の事なりし
氏は虛榮心の熾烈なる性質よりして總
名士と交際ありと稱すといふ假令如
人にては氏に向ひ吾幸に某氏を知れ
ど試問すれば金は能く彼れを知れり、
は實に金とは恨無の圓鋼なりと言ひ終
得たるものあり乎、而も名士と銘
る人物は殆んど知らざるものなきが
と而巳ならず氏は能く名士と會見せし
を他人に吹聴するを好ひて他より問は
るに先づて何の爲めに吹聴するにや人
不可思議の辨あるもの哉、
而して斯か一種不可思議の辨を有す
は先覺の士に接しては極めて愛想好く
かに頼り眼巧みに働き圓熟洒脱然と
其の場のパツを合はすに妙を得而も獨
先覺の士は左程の氏に重きと指かず、
轉の利く如くはなき人物として目する
得ざるのみ而して現今東拓會社にあり
万事此の通り口にて其の部下に直接す
員迄も亦此の風を學び居るご平ない

[illegible]

生ナエ勿へ
き當りばつたりで、木の根枝に草の配しに、ム、ム、是は誠に些少だが、お前に真の寸
でも成るべわと決心しまして、長年御厄介志安「イヌ勿体ない、斯うして江戸へ出さ
に成りました御お蔭に、是から金比羅様として、何もかも御不自由をして居らつし
へ詣りますで、江戸へ參つて、長年御厄介やる旦那様に、經一文でも頂く心算で參つ
た長年御恩を

店理代總洋

石
檢

アイボリー

店支城京原

豫約募集

申込細七集
 送本
 期日
 登載事項
 發行所
 本町二丁目
 新王城前
 北署安洞
 中署廣橋東邊
 中署龍明橋越邊
 南大門通
 京
 城
 西
 小門通
 政治家、軍人、官公吏、經濟財政家、實業家、工業家、農家、醫師、辯士、教育家、宗教家、美術家、新聞記者、銀行、社會會、教會、寺院、協會、俱樂部組合
 七月十五日
 新報
 韓文書
 盛韓東韓
 大滙東韓
 中滙東韓
 義生盛
 本紳士錄(交詢社式)には韓國各地在住の紳士の全体を網羅致候へば公私實務者の坐右に欠くべし
 本紳士錄(交詢社式)には韓國各地在住の紳士の全体を網羅致候へば公私實務者の坐右に欠くべし

本書には統監府軍司令部師團司令部各
 理事廳鐵道管理局通信管理局各民團各
 商業會議所及び韓國政府中央地方諸官衙
 各國領事館職員錄を併載放候
 京城理事廳認可

朝鮮紳士錄

定價 一部 金壹部 金五圓
 預約特價 前金壹部 金參圓
 郵費 金壹部 金五圓

成落
 當店儀昨年以來櫻井町に於て營業罷在候處今般同櫻井町に新落
 致居候家屋全部落成致候と同時に母國より藝妓仲居等
 別ビン數名新輸入致し五月一日より開業致候間賑々數御幸
 車被下度奉希候 謹言
 開業の祝として五月一日より三日間二割引



櫻井
 山
 樓
 目番
 丁八
 二七

新築

移轉開業御披露

上海山

樓電
井話
町九

-389-

31

廣告

三ノノ

中村運送庄

右の外内外各地重要なる施設
營業事務に關する御用向は

店營業課長に御相談被下座矣

發行所 東京

新報
六六三
市北